

成器南児童教室オーフス

愛称は「みなみザウルス」

市内で10カ所目となる児童センターが、成器南小学校内に開設されました。これは、猪野瀬地区に児童センターを設置してほしいという要望が出されていたなか、校下に留守家庭児童が特に多いこと、および、厚生労働省と文部科学省が連携した新たな取り組みである「放課後子どもプラン」を活用することで今回の開設となりました。学校内に児童センターを設置するのは市内では初めてのことで、放課後や長期休業期間などに、子どもたちの安全で健やかな居場所の確保を目指します。



活動室：自分の家にいるようなリラックスできる部屋。ゲーム遊びや工作など様々な体験・文化活動を行います



第1体育館：一輪車やなわとびなど、元気一杯に体を動かします。この日はドッジボールを楽しみました



● 特徴 ●
 学校内での開設のため、児童厚生員3名の他、3名の補助員（安全管理員2名、学習見守り員1名）を配置します。学校とは別々の運営のため、学校の先生が指導することはありません。また、児童教室のエリアから校内に立ち入ることができないよう、シャッターで区切ります。児童はセンター利用児童名札を付けて利用します。

● 開設時間 ●

（他の児童センターと同じ）
 平日 午後1時30分～6時
 土曜日 午前8時～午後6時
 長期休業期間（月～土曜日）
 午前8時～午後6時
 休館日 日曜日、祝日、お盆（8月14日～16日）、年末年始（12月29日～1月4日）、4月1日

● 利用方法 ●

● 登録申請書を提出します
 原則、保護者が希望する児童センターを利用することができます。ただし、いったん登録すると、安全管理の面から、利用する児童センターを変更することは原則としてできません。

● 利用する際に受け付けをします
 センター職員に来館を告げ、名簿に名前などを記入します。



記念品を受け取る岩崎くん
 成器南小学校下の児童・保護者から愛称を募ったところ、49点の応募があり、その中から岩崎峻矢くん（成器南小4年生）の「みなみザウルス」が選ばれました。岩崎君は、愛称の理由について「児童教室が南の方にあるので、勝山は恐竜のまちだから」と語ってくれました。

放課後子どもプラン

厚生労働省が従来から行っている留守家庭児童対象の「放課後児童クラブ」と、文部科学省が実施してきた「放課後子ども教室」の2つの制度の整合性を図り、一体的あるいは連携して実施する総合的な放課後対策で、放課後等に子どもたちの安全で健やかな居場所の確保を目指すものです。

勝山市の場合、従来より、児童センターにおいて、この「放課後子どもプラン」の目指す取り組みである、利用を希望する全ての児童に開放することや、「おやつ作り」や「伝承遊び」などのメニューを工夫してきましたので、今後の児童センターの機能や利用の方法が変わるものではありません。

きれいな勝山を

「かつやまをきれいにする運動」 宣言団体等協議会を設立

環境美化意識の高揚と啓発を目的に「かつやまをきれいにする運動」を展開しているなか、7月18日、「美しい環境づくり宣言区」等で組織する協議会が設立されました。これにより、自発的な、地域性に沿った、ふるさとの環境美化活動を推進していきます。



7月18日に行われた宣言団体等協議会設立会議の様子

当協議会の設立にあたり、山岸市長から「ひとつもまちも美しい」を合い言葉に、お互いに研鑽し合って環境美化の実践をお願いしたい。」とあいさつされました。各宣言区からは「この運動を通して地区を活性化したい。」などと、大きな期待が寄せられています。

「かつやまをきれいにする運動」

宣言団体等協議会

参加地区および団体
 昭和町3丁目、猪野口、若猪野、高島、西高島、毛屋、猪野、片瀬、片瀬町、岡横江、大袋、中後、下後、清水島、旭町1丁目（花を育てるのを楽しむ会）、堀名中清水、下袋田、上袋田

開善寺の 清掃ボランティア活動

7月21日の朝、勝山藩主小笠原家廟所（勝山市指定文化財）が安置されている開善寺で、檀家のかたや沢町1丁目1町内会の皆さん、市職員ボランティアなど約60名が、清掃活動を行いました。

庭の草刈りや周辺の雑草、雑木などの伐採が行われ、約1時間半の作業で見違えるようにきれいになりました。近所のかたは「これで、市外から来たかたに笑われずにすみませう。」とホッとした表情の中に笑顔が浮かべていました。清掃活動を終え、檀家総代から「本当にきれいになりました。心から感謝を申し上げます。」とお礼の言葉がありました。



開善寺境内にある小笠原家廟所の周辺を清掃するボランティアのかたがた

南大橋たもとの 桜並木の清掃活動

平成6年、勝山市制40周年記念として「みんなの記念樹植栽事業」が行われ、南大橋のたもとに桜の木を100本植えました。また、その2年後には、下流側にも15本の桜の木を植栽しました。

植樹をされたかたに清掃活動の呼びかけをし、7月28日、約40人の参加者が、桜並木の下草刈りや伸びた枝の剪定作業を行いました。

植樹の年に生まれた田中美夏子さんのお母さんは、「13年も経ち、娘は中学生。この桜の木も随分と高く太くなったものです。」と当時を懐かしむかのように作業を進めていました。

また、八十嶋歩さんはお母さんと二人で手分けし、桜の木に思いを込めながら作業にあたっていました。



どの枝を剪定しようか相談する親子